

平和を考える「小中学生作文集第三十六集」の発行によせて

沼 津 市
沼 津 市 教 育 委 員 会

沼津市は、昭和六十二年三月二十日に、市議会の議決を得て「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。核兵器の廃絶は、世界の人々の共通の願いであり、核戦争の危機に対する市民及び市議会の意思を踏まえて、平和への願いをあらわしたものです。

この作文集は、市内の小中学生が、授業や各メディア、身近な人の体験談などから、平和について感じたことを作文や詩で表現した作品を掲載したものであり、本年も多くの作品が寄せられ、第三十六集として発刊することができました。発刊にあたって、ご理解、ご協力をいただいた小中学生の皆さんや関係者の方々に、心から感謝申し上げます。

令和七年、我が国は戦後八十年を迎えました。明治維新から終戦までの、いわゆる「戦前・戦中」が七十七年ですので、すでに「戦後」の方が時間としては長いことになります。何もしなければ、当然、時間の経過とともに記憶は風化してしまいます。

また、世界に目を移せば、ウクライナやパレスチナをはじめ、未だ戦争や紛争が絶えることなく、多くの尊い命が毎日のように失われています。

そのような中、この作文集からは、市内の小中学生が、戦争を実体験として知る方々から直接お話を伺う、市内外の戦争と関わりのある場所を訪れる、戦争に関する映画やアニメを観るなどして、平和の尊さ、戦争や核兵器の悲惨さと真摯に向き合い、自分なりに考え、その想いを作文や詩としてまとめ、発信していることが伝わってきます。

平和を求める活動は、継続することが何よりも重要であり、平和を希求する心は、いつの時代も不変です。小中学生の皆さんが、この作文集を通じて抱いた想いを忘れることなく、これからも先人の記憶を受け継ぎ、平和な未来を築き、さらにまた次の世代へ引き継いでいかれることを信じています。

どうか、一人でも多くの方々に、平和を愛する子供たちの声が届くことを願っております。